



ハートだより

香川県立高松支援学校
人権・同和教育部
2023年10月27日発行
第55号

につぼんの秋、秋桜の秋

教頭 野田 知 良

秋の花・・・といえば皆さんは何を思い浮かべますか？ キンモクセイ、キク、ヒガンバナ、コスモス、キキョウ、サルスベリ……。この秋、本校では4年ぶりに高松南高校看護科専攻科2年生と、児童生徒が対面する形での小児看護学臨地実習が再開されました。専攻科の女子生徒3人にも「秋の花といえば何？」と尋ねてみました。3人ともちょっと考えて「コスモス」とのこと。

「コスモス」は「秋桜」と書いていますが「あきぎくら」と読むのが本当です。実は「こすもす」と読ませるようになったのは、山口百恵の「秋桜」が1977年にヒットしてから。45年を経た現在「こすもす」とスマホで入力すれば変換候補として出てきます。日本の秋を彩る代表的な花と言えます。

「あきぎくら」は、春の桜と同様に、いかにも日本を代表する花のように思われますが、実は明治の初めに渡来した外来種で、原産はメキシコです。最初は物珍しい可憐な花だったかもしれませんが、絵に描かれ唄に歌われ、今は日本の秋を彩る大切な花となった……。

私たちの社会は、労働人口が減少するなか、コンビニエンスストアで働く外国の方々が当たり前になり、様々な文化や習慣をもって日本にやってくる外国の方々と接するのが日常になってきました。また、バリアフリーの環境整備やICTの活用が少しずつ進み、障害のある方の暮らしも変化してきています。私たちは、障害の有無や性別、年齢、国籍などに関係なく、宗教、文化の違いなどの多様性を認め合うインクルーシブ社会の実現を目指して、一人ひとりの歩みが求められています。

明治から大正、昭和、平成、令和を経て、秋桜が日本の秋の風景として愛され、「こすもす」と当たり前を読まれるようになったのと同じように、これから50年、100年と一人ひとりが少しずつ歩んでいった未来には、もっと当たり前にお互いを大切に認め合う共生社会の風景が待っているはずだ、と私は信じています。



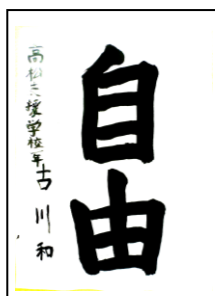
高松市人権作品展 出品作品の紹介



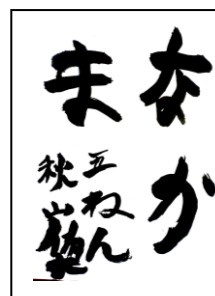
高等部3年2組
真鍋帆乃さん



中学部2年1組
平田 叶さん



高等部
1年1組
古川 和
さん



小学部
5年1組
秋山侑大
さん



小学部
4年1組
酒井 翔
さん

第70回四国地区人権教育研究大会

本大会は、人権教育の在り方と様々な人権問題を解決する実践の報告と討議をとおして、同和問題をはじめ様々な人権問題の解決の道筋を明らかにすることをめざして7月12・13日にアスティ徳島で開催され、今年度は高松一高が“人権確立をめざす教育の創造”、香川中部支援学校が“進路保障”をテーマに各校での取り組みの様子を報告しました。

▶アスティ徳島での開会式



初任者研修「人権・同和教育」を受けて
高等部 岡崎 将司

夏季休業中に田村文化センターにおいて初任者研修でもある「人権・同和教育」の研修に参加させていただきました。

私はこれまでに人権・同和教育を受けてきましたが、自分自身が被害を受けたり、身近な人が被害を受けたという経験がありません。そのため部落差別やLGBT など人権・同和の問題について深く考えることが無かったと思います。今回の研修では、部落差別が始まった経緯を詳しく説明していただきました。なぜこの地域が差別を受けてきたのか過去の問題を知ることで、なぜ現在もその地域の人が差別を受けなければいけないのかという気持ちになりました。

インターネットで調べればたくさんの情報が得られる社会である一方で、間違った情報を得てしまい誤った認識から差別につながっていることも学ぶことができました。また、実際に起こっている差別の事例についてもお話いただき、未だに部落出身だからといって結婚を断られたり、就職を断られたりということが同年代の方に起こっている事実を知り衝撃を受けました。

研修の最後に、講師の先生が同窓会に参加したときの体験を話していただき、その中に「そんな差別をしている人がまだいるの」、「部落出身の何がいけないの」という言葉をさらっと口にした教え子がいたということがありました。

「差別をしてはいけない」という固い感じの教育を受けてきたが、「差別をしている人がいけない」という雰囲気を出せる人づくりを学校の人権・同和教育を通して身に付けさせることが大切なのかなと感じました。そのためにも教員が正しい知識を身に付け、正しい行動を取っていきたいと思いました。